

FIND OUT THE LEGACY

レガシイ新発見カタログ

8つの問題提起と“本物のクルマ”的条件を整理することで、LEGACYの姿、SUBARUのクルマ造りの考え方が、はっきり見えてきた。
ここではそれらを前提に、もう一度新しい視点でLEGACYを見直してみた。
さらに新しいLEGACYを発見していただければ幸いだ。

8つの問題提起を総括

“本物のクルマ”、その条件を整理してみよう。

クルマは豪華な居間じゃない。
クルマは走るもの。
走るためにどう造られているのか。
まず、判断基準を
ここに置くことから始めよう。

クルマの基本レイアウトが、
重量バランスに優れているかどうか。
カタログを参考にするのもいいし、
エンジンとミッションのレイアウトを
聞くだけでも見当がつく。
これで、生まれながらの
資質がわかるし、
メーカーのクルマ造りの
フィロソフィーもわかる。

そして、高いボディ剛性。
まっすぐな基本フレームを
通しやすい構造、
つまりクルマの基本レイアウトが
そういう構造になっているか、
あるいはドアの閉まり音や
コーナリング時のしっかり感等でも
推測できる。
自動車事故対策センター出版の
「自動車安全情報」のような、
公の実験結果に目を通しておく
というのもいいだろう。

さらにトルクカーブもチェック

カタログで、エンジンのトルクカーブに触れているかどうかをチェックアイテム。
何にも出でていない場合は、ユーザーに説明の必要がないと思っているか、自信がないのか?
出でいれば、自分が欲しいクルマと他のクルマとスケールを合わせて
比較してみるといい。

トルクは、低中速回転域で厚みのあるものが
運転しやすいということを覚えていてほしい。

そして試乗してみる

揺れない

大きな凹凸でクルマ自体
がブルブルするような揺れ
を感じるようでは失格。ど
んな路面でも多少の凹凸
は感じさせるが、ボディや
人の体までは揺らないこ
と。
また、後ろだけボコボコと
揺れるといった揺れのバ
ランスがおかしくないこと。
これがちゃんとサスペンショ
ンがストロークしボディ剛
性も高い本物のクルマだ。

ダイレクト感と情報

ハンドルを切った分だけ
曲がる。さらに切り足すと
もっと曲がっていってくれ
る。自分のイメージ通りに
クルマが走るかどうか。
またうねりがあれば揺らさ
ないで抑え、凹凸があれば
コツコツ感じた後しなやか
にいなす。目で見たとおり
に振動と音が伝わってくる。
その情報が大切なことの
だ。

いいシート

体が沈み込まないでピタッと収ま
る。表面素材もツルツル滑りやすい
のはダメ。さらに、カーブを曲がった
とき、ヘニヤッならない。ちょっと体
のバランスを取る程度で済む。
腰を深くかけてハンドルの12時の位
置を握っても背中がシートから離れ
ず、ひじが少し曲がるという正しいド
ライビングポジションを無理なくと
れること。そして走っても腰が前にず
れるなど、姿勢が崩れないこと。体が
沈み込むようなソフトさは長距離走
行では疲れる原因になる。

いいブレーキ

止まっているときに踏み込
んでみるだけでも、その善
し悪しはわかる。めいっぱい
踏み込んだとき、グッと応え
て、剛性の高さを感じさせ
る。また、足の裏の微妙な圧
力のかけかたに反応する。
これがいいブレーキ。逆に、
踏み込んだらフニャとした
感覚だったり、踏み込むスト
ロークでしか反応しないブ
レーキは、失格だし、ABSの
効力も期待できない。